

秋田大学

## 国際交流センターニュース 第9号

Akita University International Exchange Center News

- ・留学生との懇談会 …………… (1)
- ・ドイツ大使による講演会 … (1)
- ・大学訪問 …………… (1)
- ・特集：海外で学ぶ …………… (2)
- ・留学生ニュース …………… (3)
- ・スタッフ紹介 …………… (4)
- ・研究費採択情報 …………… (4)

## 国際交流センター長と留学生との懇談会

榎本 克彦 国際交流センター長

医学系研究科 医学専攻 分子病態学・腫瘍病態学講座

恒例の留学生との懇談会を5月16日に行いました。昨年度は留学生宿舎の老朽化やカビなど住環境の悪さについてさまざまな苦情や要望があり、私達はこの1年間、少ない予算の中から可能な限り補修に取り組んできました。これらの要望に関しては一定の改善が得られたものと思っています。昨年夏には、国際交流会館B棟が完成し、本学の留学生宿舎は整備されつつあるわけですが、多くの留学生を迎え入れるためには質量ともに十分ではない、というのが実情です。大学がアパートを借り上げるといようなおもしきった対策が必要と思われる。

学習面では、図書館の閉館時間が早いこと（特に土日）や会館に勉強スペースを確保してほしいとの指摘があり、今後検討すべき課題です。また今年は日常生活をもっと楽しみたいとの意見が出され、秋田での生活の楽しさを感じてもらえるような情報提供やアドバイスも必要と感じました。今回、大学乳頭口ツジの利用や大学竿灯会での竿灯体験について提案してみました。関係の皆様、宜しくお願ひ致します。

今年の懇談では、秋田に来てくれた留学生に、勉強ばかりでなく生活面でも楽しく充実した大学生活を提供することの重要性を、あらためて認識した次第です。

## 駐日ドイツ大使を迎えて 一日本の若者に判断力を一

神谷 修 工学資源学研究科

機械工学専攻 システム設計講座

駐日ドイツ大使である、V.シュタンツェル博士を迎えて、平成24年2月24日（金）14:30よりVBL大セミナー室にて「日本の若者たちへ」と題した講演会を開きました。秋田日独友好協会の野村理事から神谷に開催の打診があったのは1月中旬でした。準備期間の短い中で、吉村学長のリーダーシップのもとで榎本国際交流センター長と同センターの教職員の連携により、速やかな受け入れ態勢が整い深く感謝します。メイン行事である、講演会は春休みにもかかわらず約100名の学生および教職員が参加して実施されました。大使が繰返し学生に呼びかけたのは、「若いときに、物事の判断力を養ってほしい」ということでした。学生からは、エネルギー問題などこれからの日本に関わる質問がありました。博士は踏み込んだコメントを避け、ドイツにはドイツの歴史と考えがあり、あくまでも日本の歴史と情勢を踏まえて、「君たち自身で考えて判断してほしい」と核心をつきました。その後、学生と記念撮影をしました。また、ドイツ大使ご夫妻を囲み、吉村昇学長主催のレセプションを、吉



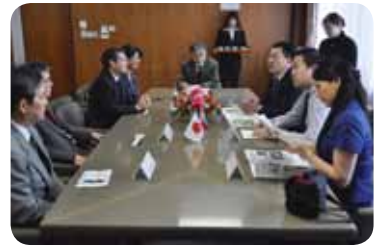
岡副学長、榎本センター長、宮本副センター長、古村秋田日独協会顧問、野村同協会理事、神谷らの参加を得て行い、和やかな中で有意義な意見が交換されました。

## イフザサグ大学副学長秋田大学訪問

高橋 嘉行 国際交流推進役

モンゴル国イフザサグ大学の副学長兼モンゴル国立科学院総裁であるナム・オソル夫妻が、3月15日秋田大学を訪問されました。イフザサグ大学は、モンゴルでは3本指に入る私立大学であり、特に法曹界では多くの卒業生が活躍しています。秋田大学は、平成22年7月に同大学と全学協力協定を締結していますが、本年4月には初めての交換留学生3名が来日し、現在、秋田大学で充実した留学生活を送っています。

また、オソル副学長は、吉村学長との懇談の中で、現在設立を申請中の医学部への協力、更には、日本語学科に学ぶモンゴル人学生の秋田での日本文化体験・日本語研修の実施を要望されました。国際交流センターでは、医学部設立の状況を確認するために現地調査を行う予定です。モンゴルの人材育成の中核となる大学として発展する可能性を秘めたイフザサグ大学への協力を今後も続けて行きたいと考えています。



## グリフィス大学訪問 (2012年3月3日~12日)

上田 由紀子 教育文化学部

国際コミュニケーション講座

私は、この3月に本学の協定校の1つであるグリフィス大学（オーストラリア）へ行ってきました。グリフィス大学は、ゴールドコースト他3か所にキャンパス持つ総合大学です。さらに、最新の言語学習機器を完備したGELIと呼ばれる語学学校も併設されています。充実したカリキュラム（レベルは、初心者から上級者まで用意されている）と英語指導の専門資格を持つ講師による魅力的な授業は、本学の学生にお勧めです。春休みを使って行くと、オーストラリアは、夏。何故だか分かりませんが、日本人が少ない。この環境は、英語を学ぶにも、異文化体験するにも魅力的です。

本年度3月には、このGELIへの短期留学のツアーを企画中です。また、来年の7月に向けて、グリフィス大の学生が秋田にshort stayするプログラムも計画中です。オーストラリアの青い海、白い砂浜、眩しい太陽の中、様々な文化圏の学生と触れ合いながら、英語力をみがきたいという人は、グリフィス大へ行ってみましょう！



## 特集 海外で学ぶ

平成24年5月18日に秋田大学海外留学説明会を開催しました。会場はほぼ満席で、学生の留学への関心の高さがうかがえました。説明会では、秋田大学交換留学制度、留学体験談、短期英語研修、TOEFLについての説明を行いました。特に反響があったのが、中国の蘭州大学に留学した松田夕佳さんやオーストラリアのグリフィス大学に留学した佐々木麻美さんの留学体験談、中林侑大さんによるTOEFL iBTの説明でした。自らの体験をもとに語られる留学経験や留学後の進路、英語の勉強方法は、学生の心に響いたようです。秋田大学では、数多くの協定校と協力関係にあり、本学の学生を海外に送り出し、多くの留学生を受け入れてきました。秋田から海外に派遣される秋大生と秋田で学ぶ留学生が、充実した留学生活を送れるよう、国際交流センターは、今後も支援を行っていきたく考えています。

(市嶋 典子 国際交流センター)

### 蘭州大学 留学報告

松田 夕佳 教育文化学部四年

2011年2月から2012年1月の約11か月、蘭州大学に交換留学しました。蘭州は中国の西北部・甘粛省の省都で、イスラーム系少数民族の回族が多く居住しています。そのため、留学生もイスラーム教徒が多く、普段宗教を意識することのなかった私は、礼拝や食生活の違いから、彼らとの共同生活に戸惑うこともありましたが、しかし授業の開始とともにわかまわりも減り、帰国した今でも連絡を取り合っています。

授業では「話すこと」が重視され、毎回、留学生同士で自国の文化についてプレゼンテーションをしたり、議論したりと、刺激的なものばかりでした。思い出は学内だけではありません。月に一度は、中国人学生や他国の留学生と蘭州市や中国各地を旅行しました。週末には農村の小学校で日本文化を紹介したり、友人の結婚式に参加したりと、毎日を有意義に過ごしました。中国を含む各国の学生との積極的な交流が、私の何よりの宝物です。



つまり、集まった募金や物資と共にオーストラリアの赤十字を通して日本に正式に届けられました。

心細かった時声をかけてくれた友達と一緒にイベントを運営した仲間、協力してくれた人々のおかげで私は一番辛い時期を乗り越えられ、この経験や出会いがその後の留学生活の大きな心の支えになりました。また、日本が世界からどれだけ評価され支持されているかに気付くことができ、自分が日本人であることを誇りに思いました。更に加から日本を見ることで、卒業後は日本のために海外と日本を繋ぐ仕事に就きたいと強く思い直すきっかけにもなりました。この出来事を忘れることはできません。



### ブカレスト大学留学報告会

Emma MORITA 教育文化学部 国際コミュニケーション講座

一年間のブカレスト大学留学を終えた菅原南（国際コミュニケーション選修4年）による留学報告会を、4月27日に開催しました。当日は教育文化学部と工学資源学部などから参加した20名に対して、留学先大学で履修した科目（英語や中国語など）や、ルーマニアでの生活全般など、具体的な内容に富む報告がされました。中でも日本では学ぶ機会がなかった、より積極的なコミュニケーションスタイルを学べたこと。また、ヨーロッパ諸国へのアクセスが2時間以内で可能という地理的利点を利用し、暇を見つけては多くの国を訪ね見聞を広げたこと。などの情報は参加者の注目をひいたようで、このようなヨーロッパ留学への副次的利点についての内容は、その後の質疑応答の活発化にもつながりました。

自律した活動に満ちた今回の内容は、今後ブカレストへ留学を考えている学生にとって、非常に有意義でした。



### グリフィス大学 留学報告

佐々木 麻美 教育文化学部四年

忘れられない出来事は、東日本大震災後に実行したチャリティーイベントのことです。震災が起こったのは渡豪して1か月後。情報が錯綜していて正確な状況が掴めず、日本の家族や友達が心配で眠れませんでした。深刻化する状況の中で自分の無力さを感じていた時、誰も知らない寮生たちから私宛にたくさんのお米やおむつ、缶詰の食料、粉ミルクやトイレトペーパーなどが届き始めました。「何が不足しているか教えて」「日本のために何かしたい」というメッセージと一緒に。私もじっとしてはいらなくなり、募金イベントを計画して、いろいろな人の知恵と協力を得ながら2日間で約4500ドルが集まりました。真っ白だった大きなシートも様々な言語の応援メッセージで埋

## 顔の見える関係づくりをめざして —春期新留学生オリエンテーション—

牲川 波都季 国際交流センター

10か国・51名の新留学生を迎え、国際交流センターではオリエンテーションを開催しました(2012年4月4日)。留学生にとっては大学行事への初参加となり、榎本克彦センター長の歓迎のあいさつに、神妙な面持ちで聞き入っていました。

そんな緊張感をほぐすべく、今回のオリエンテーションでは、出身国等別でグループ・リーダーを決め、リーダーが全員に向け自己紹介するという活動を取り入れました。連絡網づくりのほか、同時期入学の留学生として、少しでも連なりの意識をもってもらうことをめざして実施したものです。この活動の成果か否か、約2か月が過ぎた現在では、留学生用宿舎を中心に出身国・地域を越えた友情関係が生まれていると聞きます。

ウェルカムパーティーの際、今井亮副センター長はご自身の経験から、ともかくも全員健康で過ごしてほしいという強いメッセージを送られました。この願いがかなえられること、そして本学での出会いが留学生みなさんの人生に新たな未来を拓くことを、留学生担当教員の一人として願い、またそのために支援していきたいと思っています。



## 留学生とランチ

正木 康子 国際課

5月24日のお昼休み、多文化交流ラウンジで「留学生とランチ」を開催しました。1月に引き続き、第2回目となる今回は、35名を超える留学生と日本人学生が集まり、一緒にお昼ご飯を食べながら、日本語、英語、中国語……と様々な言語が飛び交っていました。お弁当さえ持参すれば、言葉や文化の壁を気にせず、皆仲良くなってしまう



ところがこのイベントの魅力です。今年度は、当イベントを毎月開催する予定です。今後さらに留学生と日本人学生の交流の輪が広がることを願っています。

## 特別講義 日本舞踊

本学客員教授の浅利香津代先生による日本舞踊の特別講義が5月21日(月)16:10~17:40、開催されました。以下は参加学生の声です。(国際交流センター)



Today, myself and the other international students had a traditional Japanese dance class. Our very energetic teacher, Mrs. Asari Kazuyo, taught us the basics of using a Japanese fan and dancing in kimonos (or yukatas in the boys' case). I personally loved the experience. The dancing was graceful and beautiful, and the yukata was so comfy I will be buying my own shortly! (Jeremy Batt 教育文化学部特別聴講学生)

## 留学生卒業記念パーティー

吹谷 美穂 国際課 留学生交流・支援担当

国際交流センターの主催で、2月29日(水)に留学生の卒業・修了を祝う記念パーティーを開きました。

2011年3月に卒業・修了を迎えた留学生は全部で53名。パーティーにはこのうち16名が出席し、在学生や教職員、留学生を支援してくださる団体の方たちとの懇談などを楽しみました。

卒業・修了生の中には、交換留学生として1年間だけ秋田大学で学んだ留学生もいれば、学部・大学院を通して秋田で生活した留学生もいます。それぞれが秋田で過ごした年月は異なりますが、日本語の習得や日本文化・生活への理解を深めつつ、一方でいろいろな苦労や経験を乗り越えて卒業・修了という日を迎えた留学生たちの、入学当初よりもたくましく成長した姿が印象的でした。

ほとんどの留学生は進学や就職などで秋田を離れてしまっていますが、勉強や仕事の合間に秋田のことをちょこっと思い出しつつ、いつかまた秋田大学へ顔を見せに来てくれたらうれしいですね。

## 専任教員からひとこと

昨年、協定校であるフィンランドのケミ・トルニオ応用科学大学を訪問した際に、国際交流センターで日本語を学んだマティ・ラミさんと会うことができた。彼は、多くの学生に本学の良さをアピールしてくれており、さらに、日本からケミ・トルニオ応用科学大学に留学している学生の面倒も積極的にみてくれていた。マティさんは、留学経験が自分を大きく成長させたと誇らしげに語っていた。現在は、日本での就職を目指し、日本語学習を続けている。マティさんのように、充実した留学経験を持って帰ってもらうことが国際交流の萌芽へとつながる。今後も、秋田大学の留学生達が充実した留学生活を送れるよう、日本語教育プログラムを充実させていきたい。

(市嶋 典子 国際交流センター)

## 国際交流センター スタッフ紹介

「国際交流課」が4月1日から「国際課」と名称を変えました。もちろん「交流」をやめるわけではありません。交流の意味をさらに掘り下げ、より広い視野で秋田大学と「世界」のかかわりを深めていきます。そんな思い（決意）を込めての課名変更です。新体制になり、メンバーの出入りもありました。これからもよろしくお願ひ致します。

### 〈新任の挨拶〉

**今井 亮 副センター長**（工学資源学 研究科 地球資源学 専攻 応用地球科学講座）  
2012年4月1日より、現職となりました。普段は地球資源学専攻において、金や銅などの有用金属が、地球のどのような場所で、どのようなプロセスで濃集するかに関する専門分野の教育と研究を行なっています。野外調査は、東南アジア、オセアニア、中央アジア、北米、南米、南部アフリカなど世界各地のフィールドに及びます。

### 〈転任の挨拶〉

**笹村 和雄**（地域創生課長）  
2年間勤務した国際交流課を離れ、この4月からは地域創生課で勤務しています。世界が相手の前職から地元密着型の現職へ、対象は180度違いますが変化に対応しつつ相手の身になって考えていくことは基本と考えています。国際交流センターのスタッフもこの4月で入れ替わり、国際交流課も国際課へと進化して、今後は学生の海外派遣にも一層力を入れていくことと思ひます。センターの皆さんの健闘に期待するところです。

## 秋田大学人事

### 〈異動〉

兼・副学長（国際戦略担当） 榎本克彦（国際交流センター長）  
▽兼・国際交流センター副センター長 今井亮（工学資源学部教授）  
▽教育文化学部教授 宮本律子（副センター長）  
▽国際課長 高橋康弘（企画広報課長）  
▽地域創生課長 笹村和雄（国際交流課長）  
▽国際課主査 鈴木奈美子（学術研究課事務職員）  
▽国際課主任 小熊麗子（教育文化学部主任）

〈採用〉田能村百代=4月1日付

〈異動〉人事課付（国際課総括主査）小野文=4月20日付

〈採用〉齊藤俊代=6月1日付

〈異動〉経理・調達課主査 加藤浩貴（国際課主査）  
▽国際課主査 加賀屋聡一（医・医事課主査）  
▽国際課事務職員 滝川敏生（医・学務課事務職員）=以上7月1日付

国際交流センター長 榎本 克彦

副センター長 今井 亮

専任教員 准教授 牲川波都季 018-889-2865

専任教員 准教授 西田 文信 018-889-2916

専任教員 助教 市嶋 典子 018-889-2938

国際交流推進役 高橋 嘉行 018-889-3023

国際課長 高橋 康弘 018-889-3035

～海外留学や留学生のことは～ 018-889-2258

吹谷美穂 滝川敏生 庄子歩 齊藤俊代

～海外交流や協定のことは～ 018-889-2856

主査 伊藤いづみ 宮崎舞

～広報のことは～ 018-889-2870

主任 小熊麗子 正木康子 田能村百代

～国際資源学教育研究センターのことは～

主査 加賀屋聡一 018-889-2869

主査 鈴木奈美子 相場さやか 018-889-2810

## 専任教員研究費採択状況

### 牲川 波都季 准教授

平成24年度は、科学研究費補助金「複言語・複文化能力理念再構築に関する基礎研究—農業従事者の異質性対応方略と思想—」（2012-2014年）、笹川科学研究助成金「留学生担当教職員のための多文化理解研修プログラムの開発—グリーンツーリズム運営農家へのインタビュー調査を応用した実践研究—」（単年度）に新規採択された。

### 西田 文信 准教授

2011年度～2013年度の予定で科学研究費補助金「ブータン王国の危機言語マンデビ語の現地調査による記述及び形態統語論的研究」、2011年度～2012年度の予定で三菱財団人文

科学研究助成（人文科学部門）「四川省甘孜藏族自治州で話されているチュウ語の記述言語学的研究」（研究代表者）に従事している。また、ベルン大学言語学研究所主催のHimalayan Languages Projectに研究分担者として参加している。

### 市嶋 典子 助教

平成24年度科学研究費補助金（若手研究B）が採択され、2012年～2015年度の予定で「実践研究理論構築のための調査研究」を行っている。また、科学研究費補助金「複言語・複文化能力理念再構築に関する基礎研究—農業従事者の異質性対応方略と思想—」（2012-2014年）に研究分担者として参加している。

## 留学生相談室

留学生の皆さんが学生生活の中で出会う問題（学業、対人関係、生活一般など）について、カウンセラーと共に話し合っていきます。困った時は訪ねてきてください。

時間：水曜16：10-17：40 木曜13：00-14：20

面接時間：1回30～40分

場所：一般教育一館二階 西田研究室

予約方法：メール、電話、口頭で。予約者がいない場合はその場でも応じます。

西田 文信（にしだ ふみのぶ）fnishida@gipc.akita-u.ac.jp

国際交流センター教員

## Student Counseling

International Exchange Center offers counseling times for international students. Don't hesitate to visit if you need professional advice for your Japanese studies, academic studies, communication, or issues that arise in your student life.

### Opening Hours:

Wednesday: 16:10 - 17:40 Thursday: 13:00 - 14:20

### Location:

Nishida's office 2F, General Education Building 1

Counselor: Fuminobu NISHIDA

fnishida@gipc.akita-u.ac.jp

### 秋田大学の留学生数（2012年7月1日現在）

学部生：106名 大学院生：44名 交換留学生・研究生等36名 合計186名

発行者：国立大学法人秋田大学国際交流センター 〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1

TEL: 018-889-2856 FAX: 018-889-3012 Email: kokusai@jimu.akita-u.ac.jp http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/index.html